

経済・金融 フラッシュ

10月 BOE 金融政策委員会:利上げも追加の量的緩和も見送り

経済調査部門 主任研究員 伊藤 さゆり

TEL:03-3512-1832 E-mail: ito@nli-research.co.jp

イングランド銀行(BOE)は6日、7日に開催した10月の金融政策委員会(MPC)で政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。

6月以降、MPCでは、利上げに1票投じられているが支持は広がっておらず、9月の議事録からは委員の大半が物価の上振れと下振れリスクに備えるべきで、追加措置が必要となる可能性が高まっていると考えている委員も何人かいることがわかる。

次回11月のMPCは四半期に一度の「インフレ報告」の公表と重なる政策変更の頻度が高い月だが、様子見姿勢は変わらない可能性が高いように思われる。

(政策金利は18カ月連続、資産買い取り残高は10カ月連続で据え置き)

イングランド銀行(BOE)は6日、7日に開催した金融政策委員会(MPC)で、政策金利の0.5%での据え置きと資産買い取り(量的緩和)残高の2000億ポンドでの維持を決めた。政策金利の据え置きは19カ月連続(図表1)、資産買い取り枠も2009年11月の2000億ポンドへの引き上げ後、2010年1月には枠を使い切ったものの、以後の増枠は見送られている。

今回のMPCは政策変更がなかったことから声明文は公表されず、議事内容、票決結果は10月20日の議事録を待たなければならない。

(資産買い取り枠増枠の選択肢も留保)

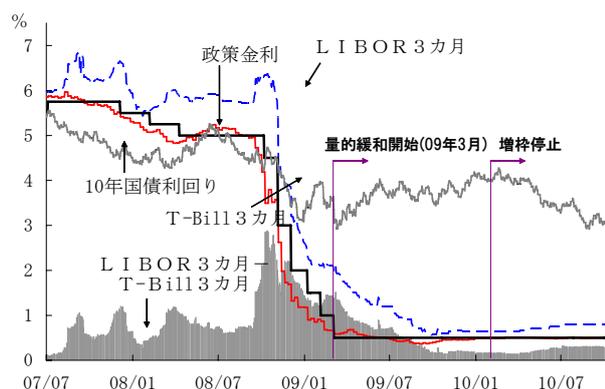
最近のMPCの票決を見ると、資産買い取り残高の維持は8月までの9カ月の間は8人の委員が全員一致で決定してきたが、政策金利に関しては6月以降、キング総裁を含む7人の据え置きに対して、センタンス委員が「経済情勢の好転」、「インフレ期待の変化」、「需要回復とともに価格転化が容易化する」との理由から「2008年末～2009年にかけて実施された例外的な金融緩和措置の収束を図る時期に来ている」と主張し、25bpの利上げに票を投じているが、支持は広がっていない。

9月の議事録を見ると、MPCは、(1)インフレ率が目標を上回る推移を続けた結果、インフレ期待も上振れ、インフレ目標への回帰が遅れる上振れリスク、(2)民間需要が在庫要因の剥落や歳出削減による需要の減少をカバーできず、余剰能力が拡大することでインフレ率が目標を下回る下振れリスクの双方を警戒しており、大半の委員がどちらのリスクが顕在化しても対応できる用意をすべきと考えており、量的緩和の増枠など追加措置が必要となる可能性が高まっていると考えている委員もいることがわかる。

為替市場では、追加緩和が確実視されるドル安が進行しているが、ポンドについては、MPC委員の一人であるポーゼン委員の講演^(注1)を受けて量的緩和の増枠への思惑が広がったこともあり、対ドルではほぼ横這いで推移、対ユーロでは減価が進んだ（図表2）。

次回11月のMPCは四半期に一度の「インフレ報告」の公表と重なる政策変更の頻度が高い月だが、政策変更の決め手となるような材料は出ず、他方で2011年初のVAT引き上げなど緊縮財政措置本格化を控えていることから、先行きの下振れリスク対応の選択肢を残すためにも、様子見姿勢は変わらない可能性が高いように思われる。

図表1 BOEの政策金利と長短金利



図表2 ポンドの対ドル相場と対ユーロ相場



(資料) Datastream

(注1) Adam S Posen, "The Case for Doing More", 28 September 2010

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。